

全日遊連創立20周年特集



本年1月、全日本遊技事業協同組合連合会は中小企業等協同組合法による協同組合として内閣総理大臣（国家公安委員会・警察庁管轄）の認可を受けてからちょうど20年を迎えました。

本号では、記念特集として、全日遊連発足からの20年の出来事を、諸資料に基づき、写真を交えながら振り返ります。

● 平成元（1989）年～平成3（1991）年

平成元年5月20日、東京・中野の「日本閣」において、1都7県の遊技業者が集結し、「全日本遊技業組合連合会」（全日遊連）が発足。

平成2年4月、「第三者発行型ぱちんこ用プリペイドカード」が遊技市場に登場。全日遊連はプリペイドカードシステム導入促進を図るために、セミナー開催等の諸活動を開始。

平成3年4月、機関誌『遊報』を創刊。月1回発行。

平成3年12月、全日遊連として初めての「全国ファン感謝デー」を開催。ホール業界がファンへの日頃の感謝と社会還元活動の一環として行うもので、現在も年1回開催。



CONTENTS

全日本遊技事業協同組合連合会 2012.3 No.250

遊報 YUHO

- 1~6 全日遊連創立20周年特集
写真で振り返る全日遊連の20年
- 7 東日本大震災から1年を迎えて
- 8~9 平成23年1月～12月
ぱちんこ店及び関連施設を狙った強盗・窃盗事案
件数は横ばい、被害総額は減少 店内での窃盗事案が増加
- 10~12 各委員会報告（1月開催）
- 13~15 各県だより
- 16 全日遊連創立20周年記念誌 現在制作中!
参考データ 遊技機設置台数状況
- 17 平成24年1月の型式試験等状況（統計資料）
- 18 連載 第35回 お客様を「集めて」「つかんで」「離さない」繁盛店の営業戦略
利益は、その店の魅力の衣れ
エンビズ総研 営業コンサルタント 林 秀尚
- 19 連載 第44回 教科書に載っていない“人の育て方”
褒めたくなくても褒めるのか?
(株)フェイス総研 取締役社長 松本和義
- 20~21 連載 第47回 ホール経営における法律相談室
「オセロ中島知子敗訴」
晴総合法律事務所 弁護士 加藤興平
- 22 連載 第35回 遊べるパチンコ最新知新
小銭からでも楽しめる、初心者でも安心の手軽な権利物、豊丸製「ミラクルチャンスP1」
元上野パチンコ博物館長 改野哲也
- 29 警察庁人事異動（速報）
平成24年度版「子供事故防止ポスター」を配付します
店内の目立つ場所での掲示をお願いいたします



表紙イラストレーション 山本高史



写真で振り返る 全日遊連の20年

10月1日から、「第一次社会的不適合機撤去」を実施。客の射幸心を著しくあおる射幸性の高い遊技機、検定後長期間を経過し新たな適合認定の申請が難しい機種等を「社会的不適合機」として選定し、全国のホールから28万9,514台を撤去。社会的不適合機撤去はその後3回行われ、最終的に全国で約70万台の社会的不適合機を撤去。



平成9(1997)年



1月、福井県で起きた重油流出事故の義援金として読売新聞社・読売光と愛の事業団へ1,000万円を寄託。

12月、全日遊連一般ファン向けのホームページを開設し、運営を開始。組織概要や統計資料等の情報公開、社会貢献活動の紹介、一般社会に向けた諸活動のPR等、内容の充実を図っている。

平成10(1998)年

5月26日に開催された全日遊連・全日防連第7回通常総会同日の理事会において、全日遊連理事長選挙が初めて行われ、投票の結果、浅野元哲理事(石川、写真)を新理事長に選任。



平成11(1999)年



4月1日に施行された改正風営法第10条の2に基づく、特例風俗営業者(優良店)制度がスタート。

10月21~22日、全日遊連運営委員会の主管で、全国の組合員が参加し、業界を発展させていくことを目的とした「第1回研究発表会」を開催。発表会において、業界の将来を担う若手組合員が一堂に会し、意見を交わした。

平成12(2000)年

3月13日、「中古遊技機流通健全化要綱」が策定され、6月1日から中古遊技機の流通の安全及び取扱いの円滑化を図り、かつ健全化に寄与することを目的とした「中古遊技機流通システム」の運用を開始。

5月23日に開催された全日遊連及び全日防連の第9回通常総会、同日の理事会において、山田茂則理事(埼玉、写真)が新理事長に選任。



7月に開催された九州・沖縄サミットに際し、警察事務負担量を軽減する目的で、遊技機入替自粛を実施。

業界の活性化を図り、イメージアップを促進するために、ANN系列「朝だ!生です 旅サラダ」で、社会貢献活動をテーマにした全国ネットのCFを放映。イメージキャラクターに女優・タレントの飯島直子さんを起用。

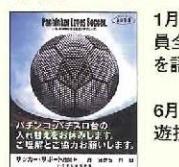


平成13(2001)年

10月、業界7団体が不正根絶に向け「遊技産業不正対策情報機構(PSIO)」の運用を開始。

平成14(2002)年

1月に、全日遊連が創立10年を迎える。山田理事長は新年の挨拶において「この節目の時期に、組合員全員が改めて業界のよって立つところを再確認し、さらに活動を強めていくべき」とこれからの決意を語った。



6月に日本と韓国で共催された「FIFAワールドカップ2002」に際し、九州・沖縄サミット同様の記慮から、遊技機入替自粛を実施。

平成4(1992)年

1月16日、内閣総理大臣(国家公安委員会・警察庁)から協同組合連合会設立を認可され、「全日本遊技事業協同組合連合会(略称:全日遊連)」となった。初代理事長に越水稔全日本遊技業組合連合会会长(写真)が就任。



4月、東京・九段の九段会館で「全日本遊技業暴力団排除総決起大会」を開催し、「全組合員が団結し、明るく開かれた健全な業界を目指して暴力団排除活動を推進する」という内容の「暴力団排除宣言」を発表。以降、暴力団対策特別委員会の設置や暴力団対策マニュアルの作成・配付等、積極的な暴排活動を展開。

平成5(1993)年

 「CR花満開」(西陣)、「CR黄門ちゃんま」(平和)等のヒットにより、CR機の地位は不動のものに。それに伴いホールにおけるプリペイドカードシステム導入が進む。

5月、遊技機不正改造事案の根絶を図るために「遊技機不正改造防止対策要綱」を策定。

平成6(1994)年

5月、遊技業界で「ばらんこ店に対する課税(ギャンブル新税)に関する陳情書」を提出。陳情の結果、ギャンブル新税は見送りへ。

平成7(1995)年

1月17日に発生した阪神・淡路大震災被災地復興支援として、兵庫県に義援金1,000万円、兵庫県遊技業協同組合に見舞金500万円を提出。各都府県方面組合からも義援金の拠出が相次ぎ、最終的な義援金額は約16億円に。



11月、業界全体の健全化とイメージアップの一環として、読売新聞全国版にコピーライターの糸井重里さんを起用した初のイメージ広告を掲載し、全日遊連が取り組んできた社会貢献活動の内容やファン感謝デーの告知等を紹介。

平成7年度「第5回全国ファン感謝デー」から、全日遊連のマスコットキャラクター「パチロー」が登場。「パチロー」の名前は、機関誌「遊報」で公募され、平成9年9月に848通の中から選ばれた。



平成8(1996)年



2月28~29日に千葉・幕張メッセで開催された「パチンコホール・ビジネスフェア'96」に全日遊連としてブースを出展。「ときめきを、文化に」のコピーをつけたロゴマークを前面にレイアウトし、不正遊技機排除啓発ポスターや暴排ポスター、読売新聞掲載のイメージ広告、高額賞品カタログなどを展示とともに、民事介入暴力対策ビデオを放映。

5月の全日遊連・全日防連第5回通常総会同日の理事会において、小野金夫新理事長(愛知、写真)を選任。越水前理事長が名誉顧問に就任。



7月29日、業界のあらゆる不正根絶に向け、東京・九段会館で「遊技業界健全営業推進全国大会」を開催3団体と共に開催し、行政、有識者を招き、不正カード防止を軸に、「遊技機不正改造根絶」「暴力団排除」をテーマに講演やシンポジウムが行われた。

夏以降、「変わります。パチンコ」をスローガンに、安心・安全な営業の徹底を世論に認知させることを目的とした「全国一齊イエローキャンペーン」、業界の社会貢献と遊技客への感謝を表すことを目的とした「遊技業グリーン全国キャンペーン」、社会認知度を高め、広く正しく世間に理解してもらうことを目的とした「遊技業ホワイトキャンペーン」を展開。

写真で振り返る 全日遊連の20年

5月の全日遊連・全日防連第15回通常総会同日の理事会において、山田茂則理事（埼玉）が理事長に選任。

12月4日、都内で有限責任中間法人遊技産業健全化推進機構（推進機構）の設立大会が開催された。推進機構は安心安全な遊技環境の整備を強力に推進し、健全な業界を再構築することを目的として設立された第三者機関で、設立大会では、河上和雄代表理事ほか全役員12名の紹介のほか、イメージキャラクター等を発表。



平成19（2007）年

8月6日、同年7月に発生した新潟県中越沖地震被災地である柏崎市を山田理事長らが訪問し、義援金総額500万円を寄付した。ホール業界からの義援金総額は5,363万円に。

9月、地球温暖化対策への取り組みとして、全日遊連「環境自主行動計画」を策定。

平成20（2008）年

1月28日、都内で全日遊連を含む業界15団体（現在は14団体）で、業界史上初の試みとなる「パチンコ・パチスロ産業賀詞交歓会」を開催。15団体の代表者が一堂に会し、総勢約400名による賀詞交歓会は和やかな雰囲気で進んだ。以降、賀詞交歓会は毎年開催され各団体の親睦の場となるとともに、合意事項や宣言の発表の場に。



5月の全日遊連・全日防連第17回通常総会同日の理事会において、原田實理事（東京、写真）が理事長に選任。

5月、全日遊連「環境自主行動計画」に基づく「2007年度ホールにおける電気使用量等調査」を開始（以後毎年実施）。

6月からは7月に開催される北海道洞爺湖「環境サミット」に合わせ、遊技機入替自粛を全国の組合員ホールで実施した。サミットのテーマである環境問題に対する業界の姿勢として、産業廃棄物排出抑制のため各地で6月5日から7月21日までの間、最低1ヵ月以上の遊技機入替自粛を実施。

9月、「遊技施設の売上管理システム」について特許を取得



平成21（2009）年

1月、「パチンコ・パチスロ産業賀詞交歓会」の席上、「遊技機販売方法に関する4団体合意」を発表。

平成22（2010）年

3月、ホール5団体による「エコホール宣言」を発表、CO₂削減に向け連携した取り組みを開始。

お 口 の お 入
LOTTE

キモチつながる、
赤いチョコ。

www.lotte.co.jp



平成15（2003）年

4月、依存症研究会（現・ぱちんこ依存問題研究会）を設置。11月、依存症研究会はホール営業者及びファンの実態を把握するために、「パチンコ・パチスロ遊技に関する依存症アンケート調査」を実施。アンケートの結果は、翌平成16年6月、「依存症等に関する組合向け意識調査」「来店客向け「パチンコ・パチスロ遊技に関するアンケート調査」」にまとめられた。



5月、第12回通常総会の席上、「身近で手軽な大衆娯楽」という原点に立ち風呂法のもとで発展していくことを宣言。

9月16～17日に、より手軽に遊べる多様性のある遊技機の取り揃えを推進することを目的として、全日遊連主催、遊技機メーカー各社の協賛により「第2種等ぱちんこ遊技機展示会」を東京のホテルパシフィックで開催、2日間で3,761人が来場。



平成16（2004）年

3月、愛知万博（財団法人2005年日本国際博覧会協会）へ2,000万円を寄付。

4月、全国理事会で、不正防止対策特別委員会の設置を承認。

12月、全日遊連及び各都府県方面組合が新潟県中越地震被災地への義援金として、合計約1億5,000万円を拠出。

平成17（2005）年

5～10月までの半年間、「ホールにおける子供事故防止強化期間」、7～8月を「子供事故防止特別強化期間」と定めるとともに、「ホールにおける子供事故防止対策4箇条」を策定。

7月、全国理事会でぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」設立支援を承認。

10月、山田理事長が退任し、原田實理事（東京）が新理事長に就任。

12月、全日遊連をはじめとするホール営業者5団体が、「いわゆる「偽ブランド品」の排除に関する決議」を発表。

12月12日、「全日本社会貢献団体機構（AJOSC）」創立総会を開催。同機構は、全日遊連が中心となり新たな社会貢献事業を推進するべく、他団体、他企業の協力を得て設立されたもので、名誉会長にはユネスコ親善大使で東京芸術大学学長の平山郁夫氏、初代会長には新国立劇場運営財団理事長で元文部科学大臣の遠山敦子氏が就任。

平成18（2006）年

1月、「サクラ・打ち子募集」「攻略法販売」等の広告を掲載する出版社に対し、業界12団体で掲載中止要請文を提出。

4月、全日遊連の全面的な支援を受け、ぱちんこ依存問題相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」の電話相談事業がスタート。6月に全日遊連が告知ポスターを作成し、機関誌「遊報」に同封して組合員ホールに配付。



4月、「身近で手軽な大衆娯楽」に立ち返り、安定的な業界の発展を目指す活動・キャンペーンの名称を「手軽で安く遊べるパチンコ・パチスロキャンペーン」に決定。キャンペーンは9月からスタートし、愛称は「遊バチ」に決定。10月21日、22日に都内で開催された「手軽に安く遊べるパチンコ・パチスロ展示会」ではメーカー50社から436台の遊技機が出展され、2日間で7,653人が来場。



東日本大震災から1年を迎えて

昨平成23年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖で発生したマグニチュード9.0の地震は、岩手県・宮城県・福島県沿岸部を中心に、東北地方で暮らす人々の生活を根こそぎ破壊するだけでなく、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散等、わが国に大きな爪痕を残しました。これらの災害は、「東日本大震災」として長く後世に語り継がれることとなるでしょう。

東日本大震災発生以降、全日遊連では、被災地に対し多額の義援金を拠出するとともに、ホールに来店するお客様への募金の呼びかけ(全日遊連イエローリボンプロジェクト)や、東北電力及び東京電力管内における夏期の電力不足に対し、平成23年7月～9月の間、管内ホールで輪番休業の実施や各種の節電活動を展開する等、被災地の復興支援に向けた活動を積極的に展開してきたことは、既に皆様もご存じのことと思われます。

そして、本年3月11日、東日本大震災からちょうど一年を迎えるに当たり、全日遊連を含むホール5団体(日遊協、余暇進、同友会、PCSA)では、被災者への哀悼の意を表すとともに、被災地の一日も早い復興を祈念する目的で、傘下ホールに對しネオン、看板灯の外壁照明を終日消灯をお願いし、ご協力をいただきました。

東日本大震災からの復興の道のりは、まだ始まったばかりです。

傘下都府県方面組合並びに文部組合、組合員ホールの皆様に対し、あらためて深く感謝申し上げます。今後とも引き続きご協力いただきますよう、お願ひいたします。

当ホールは、
平成24年3月11日(日)
ネオン、看板等の外壁照明を
終日消灯いたします。

東日本大震災発生から一年を迎えることから、

平成24年3月11日(日)全国のホールにおいて

お亡くなりになられた方々へ哀悼の意を表わすとともに

被災地の一日も早い復興をお祈りするため、

ネオン、看板照明等を終日消灯いたします。

ホール5団体が作成した東日本大震災発生一年に際しホールが実施したネオン・看板等の終日消灯を告知するポスター

写真で振り返る 全日遊連の20年

6月25日に開催された全日遊連・全日防連第19回通常総会同日の理事会において、原田理事長が再選。

11月のアジア太平洋経済協力(APEC)首脳会談開催に伴い、各地で10月1日から11月30日までの間、遊技機入替自粛を実施。実施の際には「安心・安全、環境保護のためにできること」と題された告知ポスターをホールに配付。



11月、「ぱちんこ攻略法」詐欺事件における全日遊連の捜査協力に対して、千葉県警察本部から感謝状授与。

平成23(2011)年

2月、現行法令の順守による業界の一層の健全化推進を目的に「ホール5団体風営法検討会」を設置。

3月11日に発生した「東日本大震災」は、東北地方太平洋側を中心に2万人弱の死者・行方不明者を出すとともに、東北地方のホールにも甚大な被害を及ぼした。全日遊連は被災県組合に見舞金を拠出するとともに、被災地への義援金活動を展開した結果、全日遊連(各都府県方面組合、組合員ホールを含む)からの義援金は12月20日時点まで28億6,947万2,086円の義援金を拠出。



東日本復興支援活動の一環として、全国の組合加盟ホールが共通デザイン及びテーマカラー(黄色)を用いた募金活動「全日遊連イエローリボンプロジェクト」を実施。

東日本大震災による東北電力及び東京電力管内の電力不足に対応するため、ホール5団体で協議を行った結果、7月から9月までの3ヶ月間、輪番休業や各種節電対策によって、東北電力管内のホールで20%以上、東京電力管内のホールで25%以上の電力削減を行うことで合意。7月1日から9月30日まで、東北電力、東京電力管内ホールで節電対策が実施され、東北電力管内で27.4%、東北電力管内で32.7%と、目標を上回る最大需要電力の削減を実現。



7月、「ぱちんこ依存問題相談機関『リカバリーサポート・ネットワーク』」が、パチンコ・パチスロ産業21世紀会全体による支援体制に移行。

平成24(2012)年

1月、全日遊連創立20年を迎える。

2月、創立20周年記念事業としてDVD版『遊報』を制作。

3月、機関誌『遊報』が250号を迎える。

4月下旬に『全日遊連創立20周年記念誌』を発行予定(本号16ページ参照)。

全日遊連では、これからも「身近で手軽な大衆娯楽の確立」に向け、組合員ホールの皆様とファンの方々のお役に立てるよう、諸活動を継続してまいります。

